



ナイロビマラソンに参加します！

「新しい家」でヒナ誕生！

スポンサーとランナー募集

「ナイロビマラソン（10月28日開催予定）にモヨの名前でチャリティー・ランを企画・参加しませんか。」と、スタンダード・チャータード銀行のmaksウエルさんから誘いをいただきました。ナイロビマラソンはスタンダード・チャータード銀行がスポンサーとなって開催している今年5回目のマラソン大会です。

今回の企画は、この大会に参加するモヨのランナーに対して、走った距離に応じて設定した金額を寄付してもらおうスポンサーを募るといふものです。そういうチャリティー・ランがあることは知っていましたが、まさか自分たちが主催したり参加したりするとは考えたことがありませんでした。でもmaksウエルさんにお話を伺っているうちに、そのマラソンが具体的な姿を見せ始め、ふつふつと「子どもたちと一緒に走りたい！」という思いが湧いてきました。今まで日本で講演をしたり、テレビ、新聞等でも機会があれば話させて頂いてきましたが、子どもたちと一緒にアピール出来る！子どもたちも資金集めに参加出来る！ということに心がときめきました。

子どもたちは大賛成です。ストリートの子も元ストリートの子も、ホーム「新しい家」の子どもたちも、我も

もも参加を名乗り出ています。走者はモヨのロゴと名前を入れたTシャツを着て・・・と話が進んでいます。

「孤児院建設資金」の一部をこのマラソンで集めたいと思っています。私たちと共に走ってくださる方、私たち走者をスポンサーしてくださる方を募集します。皆様のご参加とご協力を心からお願い致します。

ナイロビマラソン

スタンダード・チャータード銀行主催 / 年1回 / 今回5回目 / 登録期限は10月19日 / 昨年は5000名以上がエントリー / コースは①フルマラソン②ハーフマラソン③10キロ / 各コースとも制限時間は5時間内。海拔1600mという世界最高地でのマラソンレース。

チャリティー・ランの仕組み

①モヨの走者を募る ③走者のスポンサーを募る（個人 / グループ / 法人等）②スポンサーして頂く金額 = 1km × 設定金額。今回は1キロ / 日本1000円、ケニア500シルと設定 ④登録をする（登録料1名につき300シル ≒ 510円）⑤完走したらお約束頂いた金額を「モヨ・チルドレン・センターを支える会」の口座（ケニアはモヨの口座）に振り込んで頂く。

※登録料・Tシャツ・ケニア内での交通費等は寄付金より賄う

鶏の雛とうさぎと・・・

新しい家の子どもたち

孤児たちの「新しい家」で2月22日に9羽、翌23日に3羽、計12羽のひよこが誕生しました。子どもたちが興奮気味に報告してきて、行ってみると黒色の母鶏の下から黒と茶色の可愛い雛が顔を見せていました。昨年12月に子どもたちにせがまれて飼いだしたものです。雌4羽と雄1羽の地鶏を買って1羽の雄が死に、あるお父さんから雌、雄1羽ずつ貰い受けて計6羽になり、まもなく母鶏が卵を抱え始めました。雛の誕生を皆で首を長くして待っていたのです。昼間、庭に放し飼いにしていたら、雛が成長するにつれ畑の作物との関係が問題になってきました。そこで急遽、金網を張り、庭の後

ろ半分を「鶏の広場」にしました。

雛が誕生したちょうどその日、高学年の子どもたち3名が兎を1羽ずつ友達から買ってきました。1羽5シル（約7円）だったそうです。子どもが生まれたら1羽ずつ分けあげる約束で、他の小さい子どもたちに小屋づくりや餌やりに協力して貰うことになりました。そして24日の土曜日にスタッフの助けも借りて鶏小屋を拡張し、兎小屋も建てました。

ここティカでは「兎の肉」は肉屋さんとかマーケットでは売っていないものの、田舎のほうやスラムでは食用として流通しています。主に子どもたちが育てて売っているようですが、さて、我がホームの子どもたちはどんな計画を持っているのでしょうか？ まさか彼たちのメニューの肉の代わりに私に買わせようとの魂胆では？ 松下

遠足

ストリートの子どもたちへの支援活動

4月4日はスタジアムに集まってくるストリートの子どもたちの遠足でした。以前から何処かに連れてってとせがまれていたのですが、中々機会がなく、それがとうとう実現することになったのです。

安藤真知子さんという、二ヶ月余りケニアに滞在され、時々モヨにも来てお手伝いしてくださっていた新潟の方が、「日本に帰る前に子どもたちと楽しいひと時を過ごしたい！その遠足をプレゼントさせてください」と申し出てくださったのです。

それを子どもたちに伝えた時の喜びよといったら凄まじいほどでした。歓声を上げながら宙返りしたり、私に飛びついてきたり、ガッツポーズで走り回ったり。行き先は子どもたちの希望でナイロビの「動物孤児院」に決まりました。もちろん安藤さんもご一緒です。

その前日、子どもたちはスタジアムで一生懸命洗濯をしました。着ているものを全部洗う子、お気に入りのものだけを洗う子、とりあえず他の子のを借りて自分のズボンを洗う子、裸は恥ずかしいからあとで川で洗うという子等々。私は昼食とおやつのお買い物です。

いよいよ当日！早々と集まった子どもたち。油染みだらけの服しかなかく泣きべそをかいている子にお兄ちゃん格の子どもが古着を買ってあげるといふ嬉しい一コマもありました。

以下は安藤さんからのコメントです。

「今日（4月4日）はテルさんをお願いしていたスト

リートの子どもたちとの遠足の日でした。場所は子どもたちの希望でナイロビにある「動物孤児院」。この日のために洗濯したという、ござっぱりとした洋服を着て、一時間以上も前に全員集合していました。

スタッフ二人にテルさんと私、ドライバーさんとコンダクターの大人6名に11名の子どもたちの定員オーバーで出発。途中警察の検問所で警官にストップをかけられ「ドキッ」としたけれど、助手席に座っていた小さな子が即座に賄賂（小袋入りのポップコーン）を渡そうとする。警察官は笑いながらゴーサイン。一件落着くというところでした。車内は行きも帰りも子どもたちの明るい笑い声に包まれ爆笑しそうでした。

「動物孤児院」では動物の数はそれほど多くは無かったけれど、初めて見る動物たちに子どもたちは目を輝かせていました。昼食はパン、ゆで卵、ジュース、バナナと大ご馳走、皆幸福一杯の顔で、口いっぱい頬張っていました。私にはそんな子どもたちの顔が何よりのご馳走でした。

今日一日子どもたちと一緒に楽しいひと時を過ごせたことが、5日後に日本へ帰国する私にとって、一番軽くて楽しいお土産になりました。テルさん、子どもたち「アサンテ・サーナ（ありがとう）！」

安藤さん素敵なプレゼントをありがとうございました。子どもたちにとっては何よりのイースターの贈り物でした。一生の思い出になることでしょう。子どもたち共々心よりの感謝を！またのお越しをお待ちしています。子どもたちからの伝言です。「トゥタオナナ・テナ（またね）！」

松下

新しく支援を始めた子どもたち

様々な事情を抱えながら

今回新たに5名の学費支援を決定しました。今年は希望者が30名を越し、連日、面接が続きました。学費支援を始めた当初は出身小学校の校長先生の推薦で来る子が多かったのですが、最近では噂を聞いた保護者や子ども本人が直接依頼に来る割合が増えています。今回の5名のうち2名が学校推薦、3名は直接です。

学費支援を依頼に来るのですから、当然その子どもたち

の背景には「貧困」の問題があります。それぞれに異なった事情はありますが、全体として言うと、都市部、特にスラム地域の人々は定職に就くのが難しく、無職か或いは日雇いで生計を立てている場合がほとんどです。また農村部ではどうか食料だけは自給しているものの、現金収入が少なく学費が出せないというケースが多いです。孤児で祖父母や親戚、知人に育てられていたり、「更生院」で育ったケースも多くあります。今回選ばれた子どもたちも様々な問題を抱えています。皆とても素直です。

そして何よりも「もっと勉強をしたい！」という強い思いを持っています。

現在、高校生は、10名が卒業して5名加わり計21名、身体の不自由な小学生は4名のままで合計25名。松下

				
Mutahi Kelvin Munene ムタヒ・ケヴィン・ムネネ15才・男 NAKURU BOYS' HIGH SCHOOL 1年	Patrick Makau パトリック・マカウ20才・男 KITHIMANI HGM SECONDARY SCHOOL 4年	Joy Gathoni Wanjiru ジョイ・ガゾニ・ワンジル14才・女 KAMAHUHA GIRLS' HIGH SCHOOL 1年	Opondo Phelix Otieno オポンド・フェリックス・オチエノ 16才・男 GATUNGRU SECONDARY SCHOOL 1年	Joseph Njoroge ジョセフ・ジョロゲ 14才・男 MUHOHO HIGH SCHOOL 1年

「空腹を忘れるために（仮題）」 撮影を終えて

ドキュメンタリー映画監督
小林 茂

昨年の6月後半ケニアに入り、約5か月の撮影を終えて11月中旬帰国しました。多くの皆様のご支援をいただきましたことに深く御礼申し上げます。

ティカの町はこの地域の中心都市です。日本の中古車が走りまわる。商店や露天が並び、大勢の人であふれ活気に満ちていました。

貧困、経済格差、エイズ被害、シングルマザー、暴力、都会へのあこがれなど多様な原因を背負って、もともと小さいと、5、6歳の子どもから町へ出てきます。子どもたちはそれぞれグループに分かれていました。一人では生きられない。事情はお互い聞かないように見えました。

麻色のビニール袋に体を包み込み、町のあちこちで寝る。商店街の軒先、裏道の屋台の下。空き家。修理工場の近くで寝起きするグループは、早朝が稼ぎどき。薄暗い6時頃から鉄やプラスチックを集めに回ります。オイルの入った缶を扱うので全身まっ黒。店にそれを引き取ってもらう。食堂にかけ込む。「チャイ（ミルクティ）！」「マンダージ（揚げパン）！」。注文の音がひびく。口いっぱいマンダージをほおぼる顔は「生きている」。食べたものが血となり肉となっていくのが見えるようだ。

あるグループはバスの駐車場の食堂の前に立って

映画撮影の合間にストリートで生きる人々と。左から2人目がカメラマンの吉田泰三さん。中央が筆者



お金をもらう。大きな青年たちも集まり始める。賭けごとをやる者、プラスチックの小ビンに小分けしてシンナー（有機溶剤の接着剤）を売る者。安いタバコの実験であるが、常習性が強く、体を蝕んでいる。

9時頃から、ティカスタジアムに子どもたちがサッカーをしに集まってくる。そこにある一室が「モヨ・チルドレン・センター」のオフィスです。松下さんとスタッフは一人ひとりに声をかけながら話し合いの糸口を見つけようとします。何があったのか。親はいるのか。シンナーから離せるか。

大きなことを言うためにこの映画をつくるのではありません。先入観なしに、子どもたちの顔の表情が物語る「気持ち」を感じたい。吉田泰三さんと私が撮影した映像は100時間以上に及びました。言語が多岐にわたり、編集作業は難儀しています。今年の後半には完成させ、松下さんの講演とあわせ各地で上映会ができることを夢んでいます。

お便りありがとう①

モヨ・チルドレン・センターは多くの方々のご支援で成り立っています。中でも子どもたちからの支援は何よりの喜びで、励まされます。今回は二組の子どもたちのお便りを紹介します。

去る1月30日、ドキュメンタリー映画監督の小林茂さんから嬉しいメールが届きました。件名は「子どもたちよりのカンパ」。新潟市の阿賀野川ベリにある無認可保育所「たんぼぼ保育園」の学童の子どもたちが「ウガンダやケニアの子どもたちへ」と募金活動してくれたそうです。小林さんの講演を機会にウガンダやケニアのことを勉強し、募金箱を作り、まず自分たちのお小遣いやお年玉を入れ、大人たちにも呼びかけてくれたその募金箱は「ずっしりと重かったです」と小林さん。その子どもたちがたくさんのお便り、絵、写真等を日本からのお客様に託してくれました。その一部を紹介します。

テルさんと小林さんへ

5年・井上 堯

テルさんは、ケニアでもう何年になりますか？ぼくは、この間、テルさんのことを知ったのに、とてもストリートチルドレンの子たちに興味が生まれました。それと同時に、

ストリートチルドレンの子たちって、かわいそうだなーという気持ちになりました。しかあーし、小林さんの持ってきてくれた写真には、こっちもうれしくなるような笑顔がありました。それにさとうきびをたべているのは、うらやましくなりました。これからもよろしくお願ひします。小林さんはこの間、写真を持ってきたり、おもやげに貝を持ってきたりしてくれてありがとうございました。ほんとうに子供たちの笑顔で楽しくなりました。おもやげの貝も、日本の貝とはちがって本当にきれいでした。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。お体に気をつけて。

モヨ・チルドレン・センター・松下照美さんへ 最年長・小林拓矢

拝啓、初めまして、私はたんぼぼ保育園学童の小林拓矢と言います。この度は、ていねいなメールをありがとうございました。私たち（子供たち）のぼきんをすごく喜んでくれて、本当に助かります。前、メールをくれた時、ケニアに来て、そしてケニアの子供たちと遊べるって言いましたが、もし本当に行けたら大変幸せです。また次のメールが来るまで、待ってまーす！

お便りありがとう ②

栗山夏実さん・悠さん姉妹に出会ったのは2003年、ご両親がモヨの支援を始めて下さってしばらく経ってからです。二人とも小学生でした。その後日本に帰国するたびに会い、彼女たちは一年間貯めたお小遣いを寄付してくれるようになりました。小さな小さな支援者の誕生です。「モヨ通信5号」にも紹介させて頂いています。その彼女たちももう高1と中3です。ケニアを訪問してくれる日が待ち遠しい二人です。

「モヨ・チルドレン・センターの皆さんへ」 栗山夏実

私は日本の福岡と言う所に住んでいます。毎年松下さんが日本に来る時に、少しだけ、モヨ・チルドレン・センターの皆さんのために貯金したお金を渡しています。そのお金で皆さんの役に立てたらいいなと思っています。毎日大変だと思うけど頑張ってください！いつも応援しています。

私は今高校受験に向けて勉強を頑張っています。私が行きたい高校のコースは国際教養科です。そこで英語を勉強していつかケニア・ウガンダに行ってみたいです。いつかケニアに行くことができれば、仲よくしてください。
※今春夏実さんは見事希望の高校の希望のコースに合格！おめでとございます！！

「松下さんへ」 栗山 悠

松下さん、毎年日本に顔を出してくれてありがとうございます。ケニアやウガンダでの仕事は楽しくやれていますか？こっちは毎日楽しく学校に行っています。貯金はがんばって貯めてもあまり大きなお金にはなれませんでした。ケニアやウガンダの人達が少しでも笑顔になればいいなと思っています。私もいつかは一度くらいはケニアとか現地に行ってみたいです。お仕事はとても忙しいと思いますが、がんばってください。それと体は大切にしてくださいね。

ケニア・ア・ラ・カルト ⑩

ニヤマチヨマ

ケニアのご馳走といえば、ニヤマチヨマ(焼肉)です。ニヤマチヨマ・レストランでは、まず大きな塊のまま陳列されている肉の中から自分の好みの種類や部位を選びます。山羊、牛、鳥肉があり、レバーなどもあります。新鮮さも大事で、柔らかさが全く違います。その大きな塊のまま網にのせて炭火焼にし、焼きあがったらまな板の上に肉をのせて、私達の目の前で小さく切ってくれます。まな板の四隅には塩が盛られているので、その塩に肉片をつけて食べます。思わず「美味しい！」と口にしちゃうほど美味しいです。このニヤマチヨマと一緒に、トウモロコシを熱湯で練ったケニアの主食「ウガリ」と、タマネギとトマトの細切りにライムをかけた「カチオンバリサラダ」を供すれば、いくらでも食べられちゃいます！

ただ難点は、出来上がりまで約1時間半も待たなければならぬこと。ケニアの人達は全然気にしないでおしゃべりして待っていますが、せつかち日本人は何度もまだかまだかの催促。お国柄の違いですね。

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月/ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
1999年9月/ケニア政府より国際 NGO として「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。
2000年10月/ティカにて、本格的に活動開始。
2001年5月/「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。
2004年4月/「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000 円	20,000 円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000 円	3,000 円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

経過報告 (2007年4月30日現在)

正会員：日本71名(2名増)・ケニア8名 計79名
賛助会員：日本60名(10名増)・ケニア0名 計60名
特別会員：日本39名(2名減・1名正会員へ移行・1名住所不明)・ケニア2名・法人3社・4グループ(増)
総会員数：個人179名・法人3社・グループ4

■「支える会」よりお願い

郵便振替用紙を同封させて頂きました。通信欄にはコメントと共に会費・年度・寄付等詳細をご記入ください。皆様からのご協力を心よりお願い致します。

■「支える会」会費/寄付受付先

口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会
代表者：高塚政生※郵便振替口座番号：01660-1-73996

■お知らせ

ケニアがリアルタイムで伝わる松下照美のブログ更新中です。HP からアクセスしてください。http://moyo.jp/

編集後記

◎またまた私の原稿が遅れてしまい、発行が遅くなりました。皆様どうもお待たせしました。(テル)
◎久しぶりにケニア人の友達に会って、昔話に盛り上がり楽しい時間を過ごしました。ケニアにいながら日本人とばかりつきあっていただけると反省しきりの今日この頃です。(優香)
◎どうとう車の運転の練習を始めました。指折り数えてみれば四半世紀前にケニアで免許取得して以来です(ˊˋ;) (英)

モヨ・チルドレン・センター●ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006
P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL/FAX：254(ケニアの国際番号)-067-22329 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke
モヨ・チルドレン・センターを支える会●〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1 高塚政生方
TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632 E-MAIL：tmasao@d1.dion.ne.jp

■これまでのモヨ・チルドレン・センター日本支部は「モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部」になりました。連絡先はこれまで通り 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1916 青木康子：TEL/FAX：044-433-3447